

第3学年社会科学学習指導案

登米市立登米中学校 中津川 英樹

1 単元名 国民生活と福祉

2 教材について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の公民的分野における内容(2)―イに基づいており、「国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせること」を主なねらいとしている。その際、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解させるとともに、限られた財源の配分という観点から財政について考えさせることが必要である。

前単元の「市場の働きと経済」では、経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、価格の動きに注目させて市場経済の基本的な考え方について理解させてきた。また、現代の生産のしくみのあらしや金融のはたらきを理解させるとともに、企業の役割と社会的責任について考えさせる学習を行ってきた。本単元では、前単元の学習をうけて、社会資本の充実や社会保障などの市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について、国や地方公共団体の果たす経済的役割について考えさせる。

また、小学校では、第6学年において、「子育て支援の願いを実現する政治」について学習する際に、租税の役割について扱われる。そこで、国や地方公共団体の経済活動の財源となる租税については、意義と役割及び納税の義務について理解させ、限られた財源の配分という観点で財政を考えさせる。

特に、財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げ、歳入と歳出のバランスに視点をあて、国の借金の問題や国に頼る地方公共団体の財政の問題について考えさせたい。その際、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて考えさせることが大切である。

(2) 生徒について

生徒たちは、経済の学習を政治の学習よりも興味をもって学習している。特に、前単元での身近な経済活動にふれての学習活動では、自分の経験を積極的に発言する姿が見られた。本単元に関する租税については、夏休みには税の作文に取り組んだ。その中で、自分たちに関する教育に関わって多額の税金が使われていることを知り驚く生徒や、国が大きな借金を抱えており自分たちがその借金を返さなければならないことに不満を持つ生徒などもいた。

社会科としての学力面では、知識・理解力はあるが、資料の読み取りであったり、資料から推測・考察したりすることを苦手とする。また、学習技能面では、資料を読み取り、自分が考えたことがらを、根拠を示して説明することを特に苦手とする。さらに、他の生徒の発表から考えを深めるといった学習活動を不得手とし、根拠もなく他の生徒の真似に走ってしまう生徒もいる。

したがって、学習に関わる身近な事象を取り上げるとともに、資料から推測・考察する活動を大切に、他の生徒の発表から生徒たちの思考が深まるような学習活動を展開していきたい。

(3) 指導観

本単元は、国民生活の向上と福祉の向上を図る上で市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について、身近な事象を取り上げ、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割を考えさせ、さらに考えを深めるために、統計資料を活用し、根拠を明確に示した説明ができるようにさせたい。学習の展開としては、問題解決的な学習を展開し、予想を立てることを大切にして、調べる学習を通して知識の交流が行われ、さらに多

面的・多角的な考察へと深まるものとしたい。

特に本時では、国の財政の問題点と地方公共団体の財政の問題点を資料から考察し、問題解決に向けての生徒それぞれの考え方を大切にしたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

- ・国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割を理解する。
- ・社会資本の整備、社会保障の充実、などの財政に関する課題について複数の統計資料を関連づけて読み取らせたりグループで話し合わせたりすることで、自分の考えをまとめさせ発表させる。

(2) 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

社会保障のあり方など財政上の課題について関心を持ち、意欲的に話し合いに参加している。

【社会的な思考・判断・表現】

国や地方公共団体が果たしている経済的な役割や財政について、多面的・多角的に考察し、国や地方公共団体の経済活動のあり方について、さまざまな観点や立場から公正に判断できている。

【資料活用の技能】

国や地方公共団体の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりすることができている。

【知識・理解】

社会資本の整備、公害の防止などの環境保全や社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割および国民の納税の義務について理解し、その知識を身につけることができている。

4 単元の指導計画・評価計画（4時間扱い）

略

5 本時の学習

(1) 指導の構想

① 導入

前時の学習した税の種類について復習した上で、生徒に身近な税（消費税）を取り上げ、消費税が値上がりしたらどう思うか話し合わせ、財政の収入財源に視点を絞らせる。そして、今年の消費税増税から、なぜ国民が苦しむようなことを行うのかを考えさせ、財政には何か問題があるのではないかとすることに気付かせる。そして、学習課題を設定する。

② 展開

前半では、まず学習課題に対して予想・発表させ、学級全体の仮説をたて、課題解決への意思の強化を行う。その上で、国の歳出と歳入の割合のグラフと国債残高と国債依存度のグラフから、国の財政の問題点を読み取らせたい。単に「国が借金をしている」ということだけでなく、収入と支出のバランスと国債残高が今から30～40年前から積みもって来たことをおさえさせたい。現代の社会状況や変化にもふれて考えさせたい。

後半では、国の財政に目を向けてきたが、地方公共団体（登米市）の財政に視点を移し、歳入と歳出のバランスはどうか、公債に頼っているのかを予想させたい。うえて、「登米市の歳入と歳出」のグラフから問題点を

読み取らせる。その際に、国への依存財源である国庫支出金、地方交付税交付金について理解させ、国の財政との関わりが強いことを読み取らせたい。そのことから地方自治がどのような問題点を抱えているかを考えさせたい。さらには、これからの地方公共団体の財政のあり方について多面的・多角的に考えさせ、発表させたい。発表内容として、「歳入を増やすことについて」、「歳出を見直すことについて」、そして、「国の財政と関連づけて地方公共団体の財源の安定について」ができるようにさせる。

③ 終末

財政の問題点についてわかったことを自分の言葉でまとめさせ、さらに財政の問題解決に向けての最終的な自己判断をまとめさせたい。

(2) 本時のねらい

- ・国と地方公共団体の財政問題について、解決策を考えることができる。【思考・判断・表現】
- ・公債発行の問題点について、説明することができる。【技能】

(3) 評価規準

略

(4) 本時の展開

段階	学習内容	指導上の留意点 * 配慮事項	資料 ◎評価(方法)
導入 10分	1. 前時の税の種類について復習する。 【学習課題】	* 国税収入ベスト3 (消費税、所得税、法人税)を確認。 ○消費税が値上がりしたら、どう思いますか。 ・たくさんお金を払わなければならないから、いやだ。(挙手) * 最近の増税案を紹介する。 ○ どうして国民が苦しむ消費税の増税を行うのか ・国のお金が足りないから。・歳出が増えているから。・借金がある。・少子高齢化が進んでいる。 【学習課題】 ※ 財政に何か問題があることに気付かせる。	* デジタル教科書
		財政にはどんな問題があるのだろう。	

<p>展開</p>	<p>2. 学習課題に対して予想する。</p>	<p>○どんな問題があるだろう。予想してみよう。ワークシートに記入し、発表する。学級全体の仮説を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税収入だけでは、国のお金が足りないだろう。 ・ 国の借金がある。 	<p>資料 1 国の歳入と歳出の内訳のグラフ * デジタル教科書</p>
<p>35 分</p>	<p>3. 国の財政について調べる。</p> <p>4. 地方公共団体の財政について調べる。</p> <p>5. 国に依存する地方財政の問題について考える。</p>	<p>○資料 1 から国の財政にはどんな問題がありますか ※ 税収入だけでは不足しており、国民からの借金（公債金）で補っていることに注目させる。さらに、歳出の公債金と歳出の国債費を比較させ、返済し切れていないことに気付かせる。</p> <p>○資料 2 も関連づけて考えると、どんな問題がありますか。 ※ 国債依存度の変化と国債残高の変化を読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国債への依存度が近年増加してきている。 ・ 国債残高は年々増加してきている。 <p>※ ノートに記入させる。発表し合い、他人の発表から、自分の読み取りに付け加える。</p> <p>○地方公共団体（登米市）の財政のバランスはどのようになっているのだろう ※ 市税、市債だけでなく、国庫支出金、地方交付税交付金に着目させ、理解させる。</p> <p>※ 地方公共団体の財政が、国の財政に依存していることに気付かせる。</p> <p>○ 地方公共団体の財政が、国に依存しているとどんな問題があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治が国の財政に影響される。 ・ 地方公共団体独自の活動ができない。 	<p>資料 2 国債の発行残高と国の歳入に占める国債の依存度のグラフ * デジタル教科書</p> <p>◎ 公債発行の問題点について、説明することができる。（ノート）</p> <p>資料 3 登米市の歳入と歳出のグラフ</p>
<p>終 結 5</p>	<p>6. 国や地方公共団体の財政の問題点から今後の財政のあり方を考える。</p>	<p>○ 国と地方公共団体の財政の問題点を自分の言葉でまとめ、今後の財政のあり方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費税などの増税を再度行う。 ・ 地方公共団体の財源を安定させる。 ・ 歳出を見直す。 <p>※ ノートに記入させる。発表し合う。他人の発表（ノート）から、自分の考えに付け加える。</p>	<p>◎ 国と地方公共団体の財政の問題について、解決策を考えることができる。（ノート）</p>